

訂改
兵要日本地理小誌
反刻
上

大日本教育會書館			
第二室			
三	一	一	二
冊	八	口	函
	号	架	

特32
584

023116-001-1

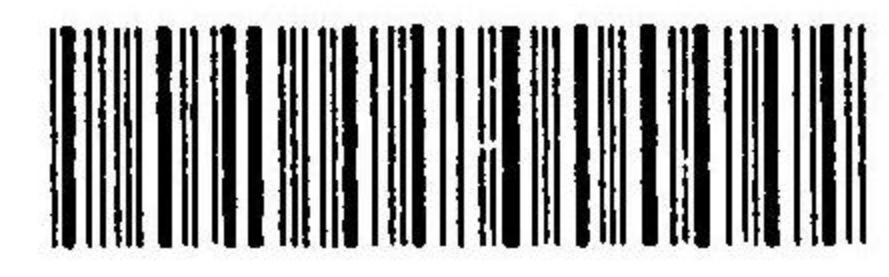
特32-584

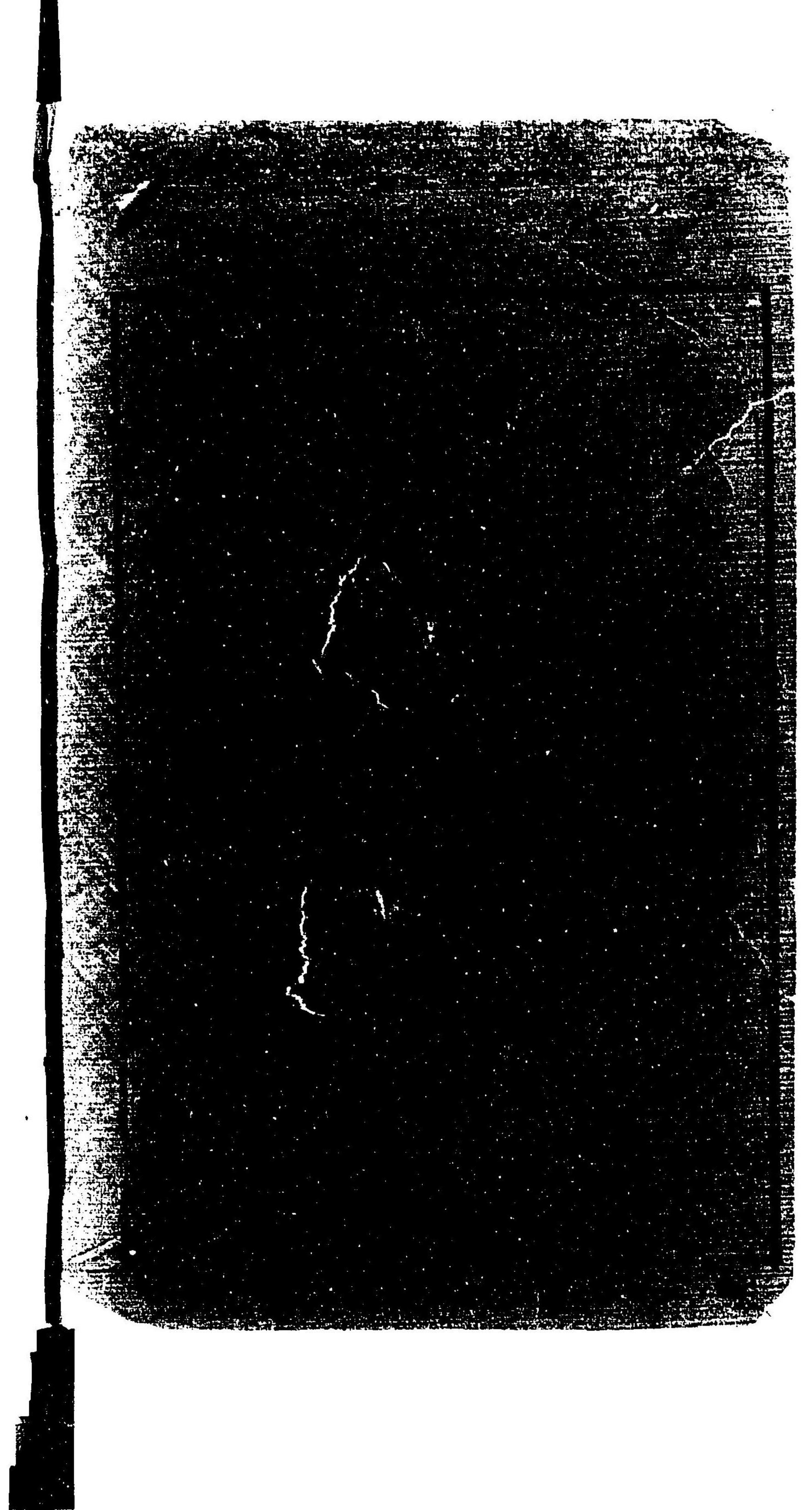
兵要日本地理小誌

松村 九兵衛, 等 / 刊

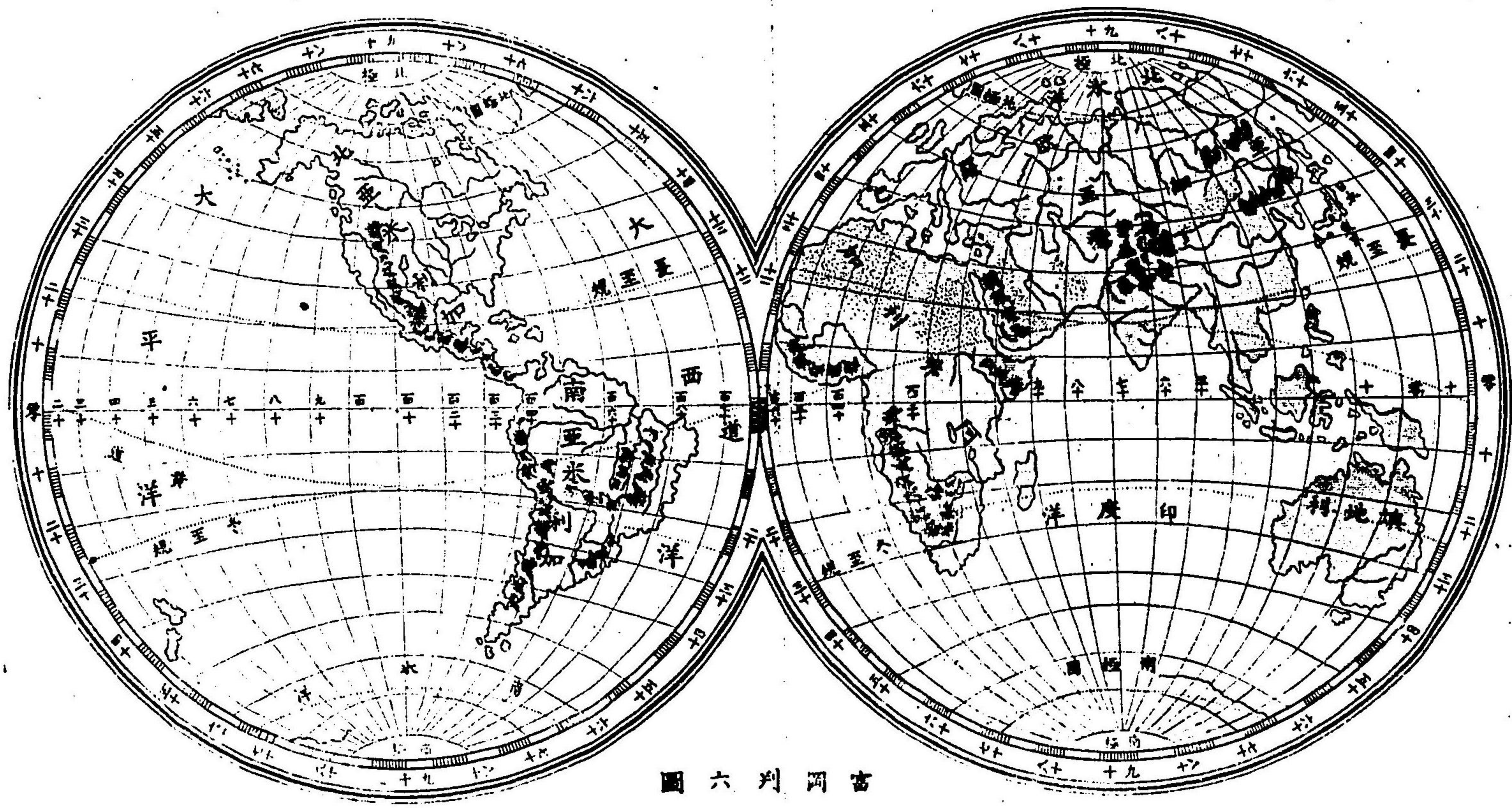
M13

ADB-1139



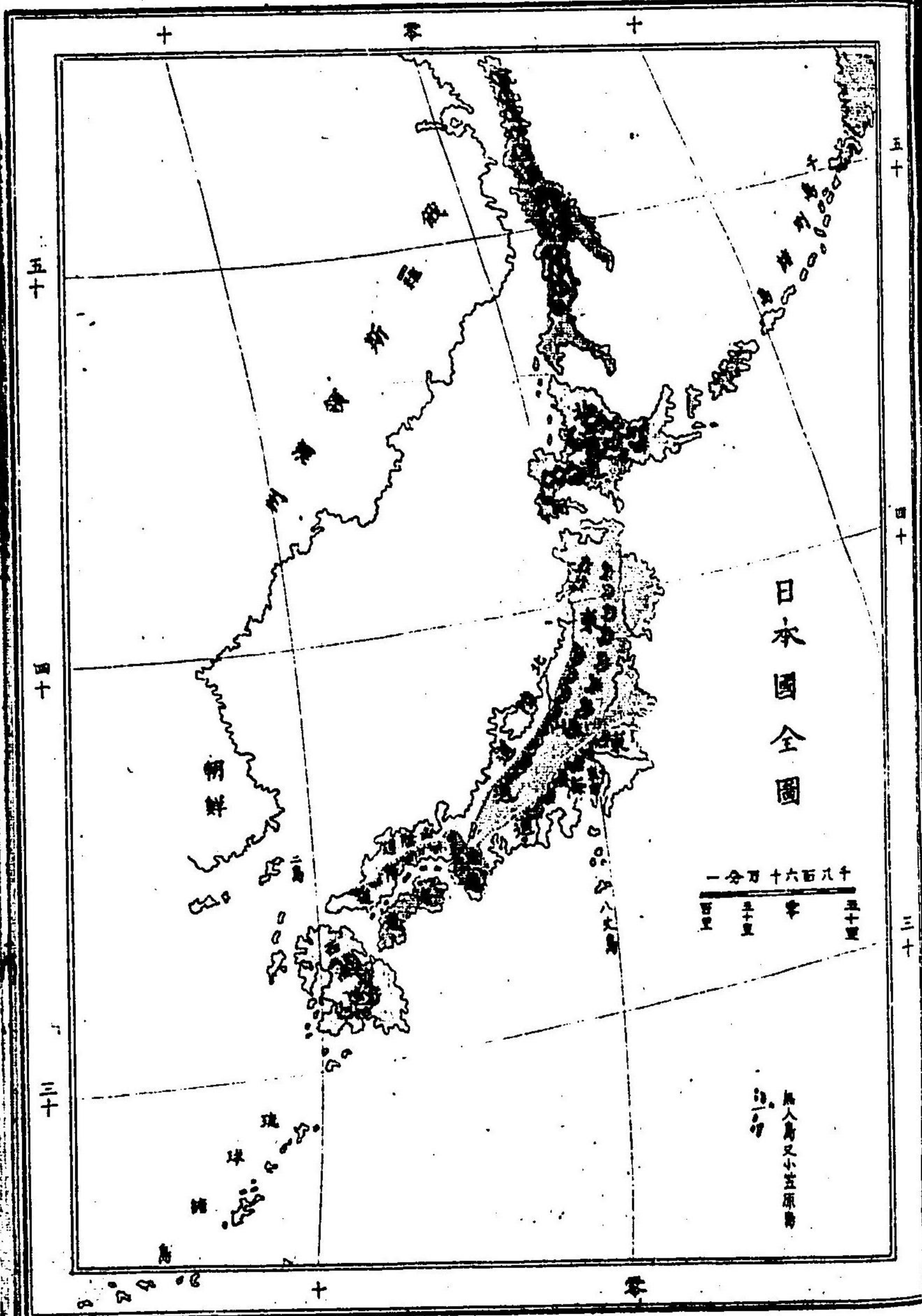


京師圖



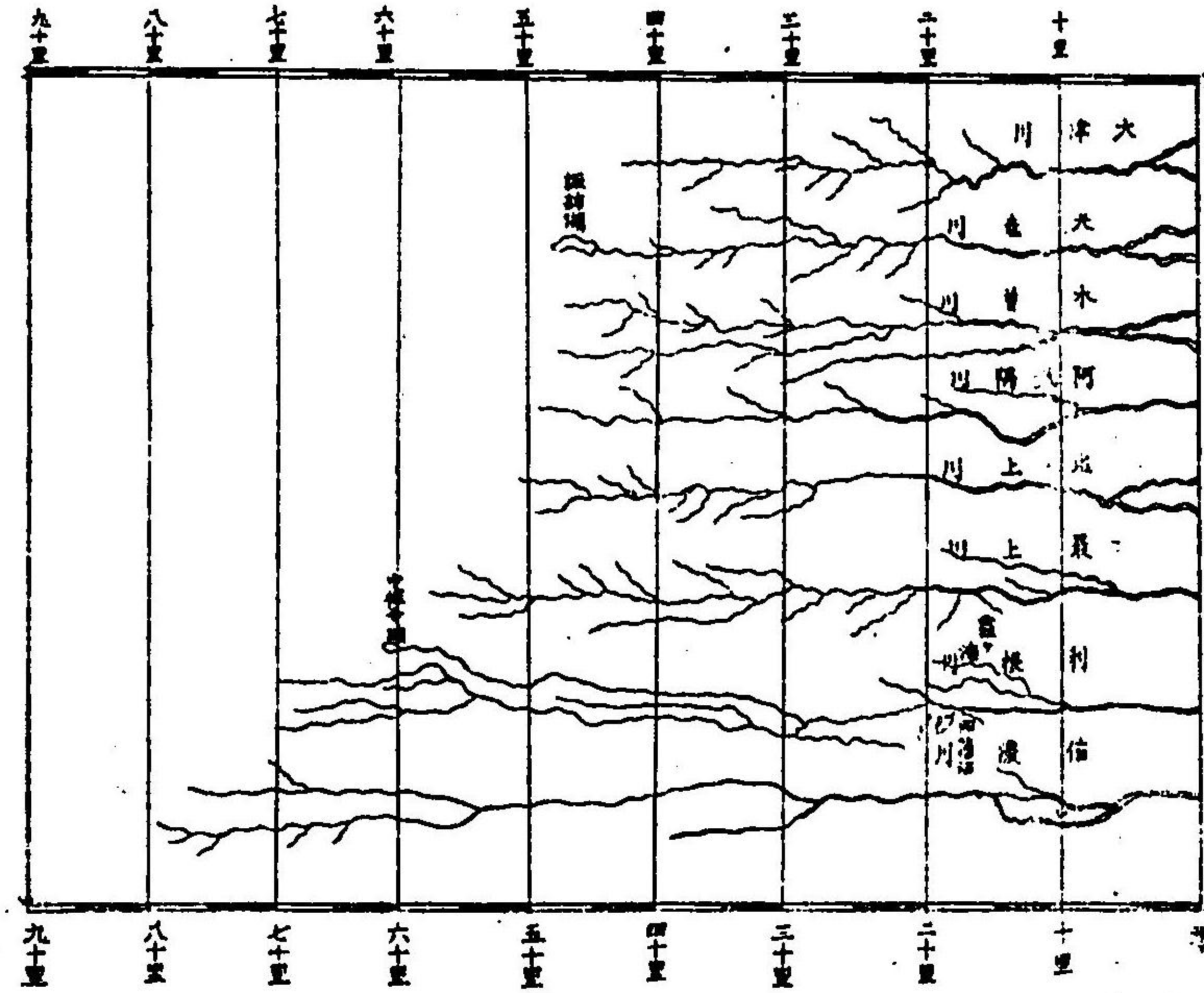
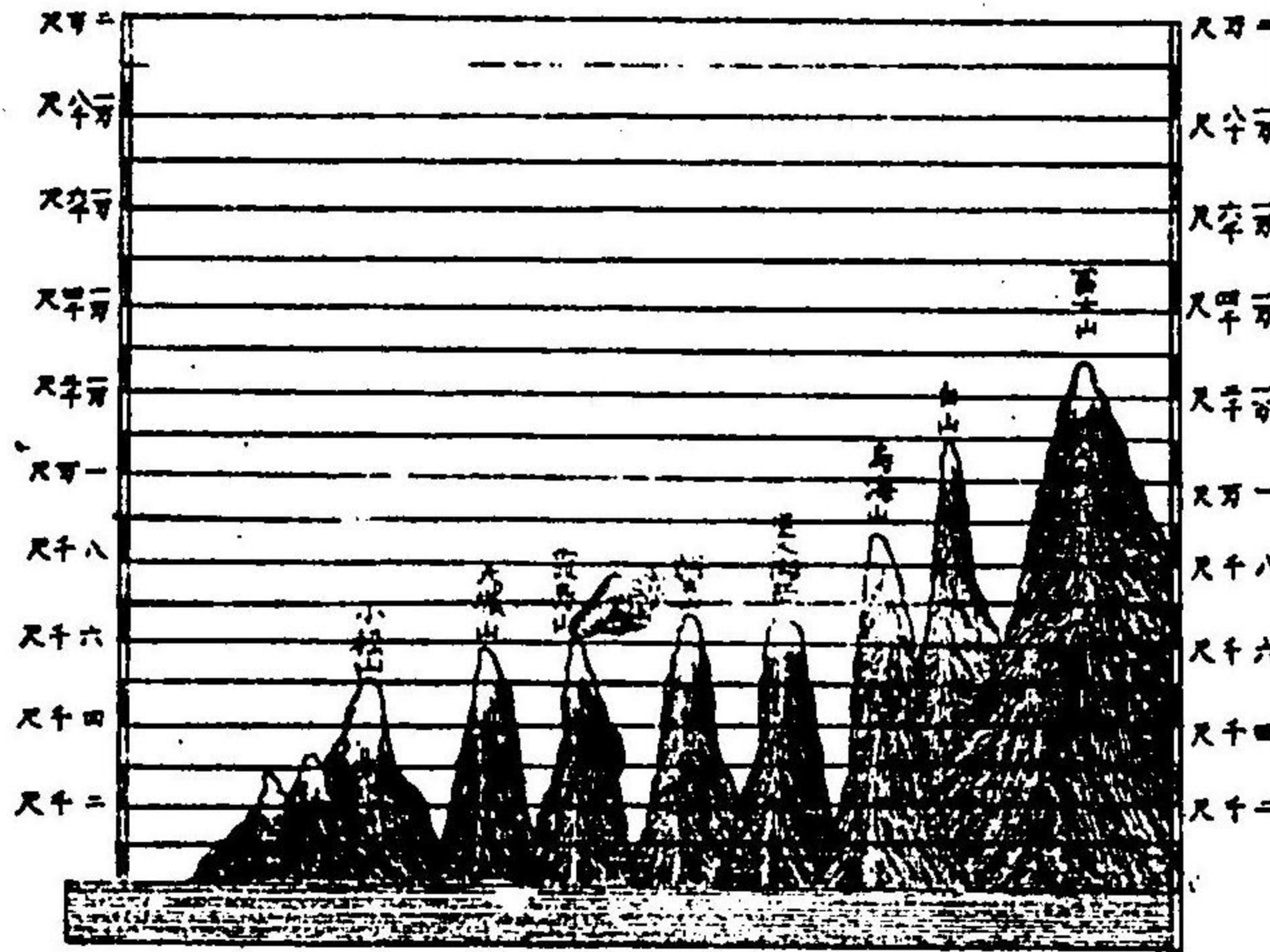
圖六 判河古

東瀛圖



東 嶺

山岳ノ峻嶺ニ在ル者其高度未々知ル可ラサル
 甚々多シ河流ノ長短書載スル所亦一定ナラス
 他日其精實ナル者ヲ得テ之ヲ載スヘシ是特ニ
 其大概ヲ舉ルニ



兵要日本地理小誌

凡例

一 地誌ノ體先ツ地球ノ轉回各國ノ位置ヲ畧
 説レ而ノ後其國ノ事ニ及フヘシ然レ凡是
 等近日人ノ能知ル所而メ此書本邦ノ事ヲ
 舉ルヲ主トスルヲ以テ卷首ニ畧圖ヲ掲ケ
 以テ其大概ヲ示スノミ

一 全國論ハ各國ヲ概メ説ルナレハ先ツ之ヲ
 讀ニ非サレハ一國ノ事亦從フテ詳ナリ難

東洋叢書

一

シ北へハ中國ノ山脉東ヨリ西ニ直ニトア
レハ山陰ノ國ハ南高ク北卑ク山陽ノ國ハ
北高ク南卑ク其水經モ從フテ南北ニ分流
スルヲ坐メ知ルヘシ其他此類猶多シ推テ
知ルヘキナリ

一各國ノ内其一國ノ地形ヲ知ント要セハ必
ス隣國ノ地形ヲ按ノ後其實ヲ得比へハ東
海道ノ國ニ在テ北方山多シト云フ者ハ即
チ東山道南方ノ山ト同一ノ山脉タリ或ハ
駿河ノ富士山ハ甲斐ニ在テ之ヲ見レハ其

國ニ在カ如ク加賀ノ白山ハ越前ヨリ之ヲ
見レハ又其國ノ山カト思ハル故ニ四隣ノ
地理ヲ按メ後其國ノ地從フテ詳ナルヲ
得ヘシ

一此書本陸軍軍人ノ為ニ設ク故ニ其地勢ヲ
論スルニ至リテ某ノ南ニ某ノ北ニ
某アリ等ノ語多シ山河ノ順序ヲ畧知セシ
メシ為ナリ
一各道論ノ如キ地勢ト戰陣トマ混説ス是軍
人ノ要道ナルヲ以テナリ然レモ若シ其地

形ヲ細論セハ絶險ノ地亦平地アリ而ノ平
 夷ノ地亦險據ルヘキアリ是則チ兵家ノ詳
 ニス可キ所此ニ論スル所ノ如キハ特ニ其
 大勢ヲ云フノミ者者一ヲ執テ百ヲ廢スル
 勿レ

一各國歴史ハ其國ノ沿革及ヒ戰鬪等ヲ記ス
 ト雖ニ封建ノ後一國數氏ニ属スセ者ハ一
 ヲ之ヲ記セス其戰鬪モ大戰ヲ記リ自餘ノ
 小戰ヲ畧ス此書歴史ヲ以テ主トスルニ非
 サレハナリ

一磐城岩代以北ノ數國及ヒ北海道ノ如キハ
 近歲分國スル所ニモ記スル所ノ事ハ大抵
 分國以前ニ在リ故ニ其史亦之ヲ合セ記ス
 讀ム人ノ曉リ易カラシクテナリ

一豊臣氏徳川氏相尋テ天下ヲ總統ス故ニ戰
 國以後天下ノ國大抵ニ氏ノ所轄トナリ而
 ノ今時皆朝廷ニ帰ス今一々之ヲ記セス務
 メテ簡ニ從フヲ以テナリ

名辭

地ノ最モ大ナル者之ヲ洲ト云フ其小ニ

四圍水ヲ環スル者之ヲ嶋ト云フ地ノ高ク
 聳ユル者ヲ山ト云ヒ其卑クシ小ナル者ヲ
 丘陵ト云フ山勢連續ノ断サル者之ヲ山脈
 ト云ヒ山彙ト云フ地ノ平坦ニシテ廣キ者ヲ
 原ト云ヒ野ト云フ地勢山ノ如クニシテ上平
 カナル者ヲ高原ト云フ二山ノ間水ノ赴ク
 處ヲ溪谷ト云フ地ノ三面水ヲ帶ル者ヲ隅
 ト云ヒ半嶋ト云フ彈丸ノ地海中ニ斗出ス
 ル者之ヲ岬ト云ヒ角ト云フ其山ヲ以テ盡
 ル者之ヲ岬ト云フ兩地ノ間地勢一綫路ヲ

通シ左右ニ水ヲ受ル者之ヲ地峽ト云フ
 水ノ尤モ大ナル者之ヲ洋ト云フ洋ヨリ分
 チテ大地ニ近キ者之ヲ海ト云フ海ヨリ支
 分メ地中ニ入ル者之ヲ灣ト云フ船ノ停泊
 スヘキ處之ヲ港ト云フ二地ノ間海水流通
 ノ勢狹隘ナル者之ヲ海峡ト云フ水ノ地ヨ
 リ流出シ細小ナル者之ヲ泉ト云ヒ其流レ
 テ漸ク大ナル者之ヲ川ト云フ水ノ一處ニ
 滙シテ淺ク且泥アル者ヲ沼ト云ヒ其深ク且
 清ル者ヲ湖ト云フ

兵要日本地理小誌

卷之一

全國論

位置

分界 道 國 郡 及 支 府 縣

山原

河湖

海灣

港岬

隅嶋

海峽
地峽
氣候
人情
風俗
歷史
政治
物產
戶口
各國論

東海道總論
各國誌 附小笠原島誌

卷之二
畿內總論
各國誌
東山道總論
各國誌
北陸道總論
各國誌

卷之三

六

山陰道總論

各國誌

山陽道總論

各國誌

南海道總論

各國誌

西海道總論

各國誌 附琉球誌

二鳴總論

各國誌

北海道總論

各國誌 附南太誌

兵要日本地理小誌卷之一

中根淑 著

位置

我大東日本國ハ東半球^ア亞細亞^アノ東邊ニ表立シ
 緯線赤道ノ北三十度ヨリ起リ四十五六度ノ間
 ニ畫ク經線東京偏東十一度ヨリ起リ偏西十一
 度ニ畫ク其地北ハ西伯里^リニ密通シ東南太平洋
 ニ枕シ而メ西ハ支那朝鮮及ヒ滿州ト遙々海水
 ヲ隔ツ其地東北ヨリ斜ニ西南ニ至ル綿亘六百
 餘里廣袤或ハ三十里或ハ六十里齊カラス而メ

其面積大約二萬二千九百二十方里アリ其地形
恰モ龍ノ天ニ翔ルカ如シ西方ヲ首トシ中央ヲ
身トシ而シ北方ヲ腰トシ尾トス
我國四大島及ヒ許多ノ小嶼ヲ以テ國ヲ立ツ其
中央ニ位スル大地ヲ本土トシ南ニ在ル者ヲ四
國トシ西ニ在ル者ヲ九州トシ而シ北ニ在ル者
ヲ蝦夷ト稱ス近歲之ヲ改メテ北海道ト云フ
經緯西度前節舉ル所ノ如シト雖ハ洲外諸島遠
ク其外ニ出ル者アリ則チ小笠原島ハ北緯線二
十六度半東經線三度餘ニ至リ琉球諸島ハ北緯

線二十四度西經線十七度ニ及ビ而シテ島群太
諸島ハ北緯線五十四度東經線十一度ノ外ニ出

分界 道 郡 縣 及 ヒ 府 縣

全國四洲之ヲ分チテ畿内八道トシ本土ノ東方
海上ニ並列スル國ヲ東海道十五國トシ小笠原
嶋ヲ以テ之ニ附ス其背ニ沿テ東シ終ニ北海
中ニ延出スル國ヲ東山道十三國トシ其北面ニ
在テ北海ニ臨ム國ヲ北陸道七國トシ此三道ノ
西南一帶ニ在ル五國ヲ畿内トシ上古ヨリ近歲

二至ル地皇家毎ニ此開ニ玉城ヲ奠メ玉ヲ以テ此稱アリ畿内ノ西ニ在テ北海ニ面スル國ヲ山陰道八國トス是ト相表裏ノ納海ニ面スル國ヲ山陽道八國トス畿内ノ南海中ニ斗出スル地ヨリ四國ヲ供セテ南海道六國トス九州一帯ヲ西海道九國トシ琉球ヲ以テ之ニ屬ス又其西海中ニ在ル二國ヲ二島トス其他北海道ヲ十一國ニ分チ樺太ヲ以テ之ニ附ス
 東海道ノ東邊六國及ヒ之ト連接スル東山道ノ二國ノ合セテ關東八州ト云ヒ東山道ノ北邊諸

國ヲ東北ト云フ其外北陸道ヲ北國ト云フ山陰山陽兩道ヲ中國ト云フ

東海道十五國

- 武藏 安房 上總 下總 常陸 相模
- 甲斐 伊豆 駿河 遠江 三河 尾張
- 志摩 伊勢 伊賀 附小笠原島

畿内五國

- 山城 大和 河内 和泉 摂津

東山道十三國

- 近江 美濃 飛騨 信濃 上野 下野

磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前
羽後

北陸道七國

若狹 越前 加賀 越中 越後
能登

山陰道八國

丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲
石見 隱岐

山陽道八國

播磨 美作 備前 備中 備後 安藝

周防 長門

南海道六國

紀伊 淡路 阿波 讚岐 伊豫 土佐

西海道九國

筑前 筑後 豊前 豊後 肥前 肥後
日向 大隅 薩摩 丹波

二嶋

壹岐 對馬

北海道十一國

渡島 後志 石狩 天塩 北見 釧路 根

郡ノ制國中ヲ分畫シ地理ノ形勢田畝ノ利便ニ

就テ之ヲ立ツ故ニ大小廣狹固ヨリ一ナラス其

小キ者ハ一國二三郡多キ者ハ十數郡アリ而シ

郡ノ一ニ又村アリ故ニ北海道ノ外諸道ヲ分シ

テ七十三國トシ其下ニ六百三十一郡アリ又其

下ニ七万一千二百十六村アリ

北海道十一國ノ内八十六郡アリ而シ其村邑部

落ノ數ハ未ク詳ナラス

府ノ制國中ニ在ル者アリ西國ニ跨ル者アリ東

京府ハ武藏五郡ヲ兼ヌ而シ其三郡ハ半郡縣ニ

屬ス京都府ハ山城八郡及ヒ丹波三郡ヲ保ツ大

坂府ハ摂津七郡ヲ併ヌ之ヲ三府ト云フ是皆大

都會ノ地而シ皇室大城ノ在ル所ナリ

縣ノ制三府ノ外全國更ニ分テテ六十縣トナス

故ニ一國ヲ以テ一縣トスル者アリ一國ヲ分テ

テ二縣トスル者アリ二三國ヲ合セテ一縣トス

ル者アリ或ハ一國ノ内一二分ノ他縣ニ屬スル

者アリ而シ北海道ハ異ラサルナリ

府縣ノ數自ラ國界ト同カラス蓋國ハ山河ノ形

勢ニ由テ以テ其境域ヲ分ツ而メ縣ハ政治ノ便
 宜ニ由テ以テ其區畫ヲナス是其異同ヲ致ス
 エンナリ

三府ノ府名ノ下ニ注スル地名

東京府ノ下ニ注スル地名

六十縣ハ縣名ノ下ニ注スル地名

神奈川 武蔵

新潟 越後

千葉 下総

山梨 甲斐

大坂府 大坂

長崎 肥前

熱谷 同

足柄 相模

濱松 遠江

愛知 尾張
 奈良 大和
 岐阜 濃尾
 枋木 下野
 福島 同
 岩手 盛岡
 山形 山形
 敦賀 越前
 相模 相模
 鳥根 出雲

三重 伊勢
 堺 和泉
 琉摩 信濃
 磐前 信濃
 宮城 陸奥
 青森 陸奥
 鶴岡 同
 石川 加賀
 豊岡 但馬
 濱田 石見

度會 山田
 滋賀 近江
 長野 同
 若松 若松
 水澤 陸奥
 置賜 羽後
 秋田 秋田
 新川 越前
 鳥取 因幡
 飾磨 備前

山形 同

十三

北條茨木 廣島安藝 名東阿波 高知土佐 小倉豊前 白川肥後

岡山備前 山口周防 香川讃岐 福岡筑前 大分豊後 宮崎日向

小田備前 和歌山紀伊 愛媛伊豫 三浦筑後 佐賀肥前 鹿兒島薩摩

山原

我國ノ山脈北・樺太東・千島ヨリ起リ共ニ北海道ニ入テ蟠結レ遂ニ南・東山道ニ移リ蜿蜒起テ幾内ニ赴キ山陰・山陽ノ間ヲ馳テ西・九州・濟リ

屈曲メ西南ニ盡ク而メ中間一大支アリ即チ伊勢大和紀伊ノ際ヲリ南ニ分レ四國ニ入テ西ニ盡ク其餘各國到ル處山峯アリ是皆小枝片葉ノ山ノ至峻ノル者駿河ニ富士山アリ陸奥ニ岩城山アリ加賀ニ白山アリ伯耆ニ大山アリ肥後ニ阿蘇山アリ後志ニ後志羊蹄山アリ其他山岳甚ク多シト雖モ皆其兒孫ノ如シト云フ洲内火山十數坐アリ故ニ温泉亦從フテ多シ中ニ就テ伊豆相模信濃ノ三國上野下野以北ノ諸

國及ヒ豊後肥後ノ二國最モ多シ而々其善ク疾
ヲ療スヘキ者ハ伊豆ノ熱海攝津ノ有馬上野ノ
草津伊豫ノ道後肥前ノ古湯等以下數湯アリ
洲内ノ國皆山脊ヲ分テ前後ニ位ス其四境山
景ヲ繞ラスノ國之ヲ稱シ山國ト云フ其二山ノ
間ニ位スル者則チ泰西稱スル所ノ溪谷是ナリ
而々武藏以北及ヒ摂津河内筑後肥前肥後ノ地
ノ如キ郊野遼濶一望際ナキ者之ヲ稱シ曠原ト
云フ其他各國小原多シ遠江ニ味方原アリ信濃
ニ桔梗原アリ下野ニ那須野アリ其外相模ノ仙

石原大和ノ大臺原備後ノ仙養原等ノ如キ山上
或ハ山間ニ在ル者ハ之ヲ稱シ高原ト云フ又古
ヘ原野ト稱シ而々今已ニ田畝トナル者アリ閑
原阿倍野ノ如キ是ナリ是特ニ其名存スルノ

河湖

我國大河アルナシ獨リ利根川上野ヨリ發シ下
野下總常陸ノ境ヲ過テ東海ニ朝ス千咫川信濃
ニ發シ越後ヲ貫通シ北海ニ注ク此ニ河水源稍
遠シ其次ハ遠江ニ天龍川アリ岩代ニ阿武隈川
アリ陸中ニ北上川アリ羽前ニ最上川アリ石見

ニ郷川アリ石狩ニ石狩川アリ其他武蔵ニ角田川アリ駿河ニ富士川アリ義濃尾張ニ木曾川アリ山城棋津ニ淀川アリ越中ニ神通川アリ越後ニ阿賀川アリ紀伊ニ紀川アリ阿波ニ吉野川アリ筑後ニ筑後川アリ十勝ニ大津川アリ是又其次ナリ

湖ノ最モ大ナル者ヲ北江ノ琵琶湖トス其次ハ常陸ノ霞浦羽後ノ八郎海下総ノ印旛岩代ノ猪苗代出雲ノ松江信濃ノ諏訪棒太ノ縫江辨連戸等ナリ是皆ロアルノ湖ナリ其餘小湖僕指スル

ニ暇アラス

海灣

海ノ大ナル者東南ヲ太平洋トシ西北ヲ日本海トシ最北ヲ阿留加海トス沿岸附近ノ海常陸一帶ヲ鹿島灘ト云ヒ相模ノ海ヲ相模灘ト云ヒ伊豆ヨリ志摩ニ至ル一帶ヲ遠州灘ト云ヒ紀伊ノ海ヲ紀州灘ト云ヒ土佐ノ海ヲ土佐ノ沖ト云ヒ中國四國ノ間ヲ内海ト云ヒ其東ヲ播磨灘ト云ヒ西ヲ水島灘ト云フ又伊豫ノ海ヲ燧灘ト云ヒ其西ヲ硫黄灘ト云ヒ周防

ノ海ヲ周防灘ト云ヒ長門ノ海ヲ響灘ト云ヒ筑前ノ海ヲ玄海灘ト云ヒ日向ノ海ヲ日向灘ト云ヒ石見一帶ヲ石見灘ト云ヒ筑登一帶ヲ筑登海ト云フ

灣ノ最モ大ナル者東海道ニ品川ノ灣駿河ノ灣伊勢ノ海アリ東山道ニ松島ノ灣陸奥ノ灣アリ畿内ニ大阪ノ灣アリ西海道ニ有明沖鹿兒島ノ灣アリ北海道ニ箱館ノ灣及ヒ膽振根室ノ灣アリ樺太ニ西尾勒哈地尾塞ノ二灣アリ

港岬

武藏ノ横濱港長津ノ兵庫港越後ノ新潟港肥前ノ長崎港渡島ノ箱館港之ヲ五港ト云フ皆海外商舶ノ至ル所タリ次ニ武藏ノ品川港伊豆ノ下田港駿河ノ清水港志摩ノ鳥羽港長門ノ大坂港陸前ノ石巻港陸奥ノ青森港越前ノ敦賀港越前ノ七尾港佐渡ノ小木港長門ノ下関港土佐ノ高智港薩摩ノ鹿兒島港琉球ノ那覇港北見ノ宗谷港樺太ノ白老港亦皆貿易輻輳ノ港タリ岬ノ最モ頭ル者上総ノ富津岬アリ下総ノ大岬アリ遠江ノ御前岬アリ志摩ニ大王岬アリ

陸奥ニ尻矢龍淵ノ二岬アリ能登ニ珠洲岬アリ
紀伊ニ改見崎アリ伊豫ニ三崎アリ土佐ニ室津
足摺ノ両岬アリ豊後ニ壱岐関岬アリ日向ニ土
肥岬アリ大隅ニ佐多岬アリ日高ニ選藻岬アリ
北見ニ知床岬アリ樺太ニ白主知床真知床ノ三
岬アリ其餘小岬枚舉スルニ暇アラヌ

隅嶋

隅ノ大ナル者東海道ニ安房伊豆アリ北海道ニ
能登アリ西海道ニ肥前アリ北海道ニ渡島アリ
其他各地小隅亦甚タ多シ

洲外島嶼極メテ多シ其数大約四千ニ下ラス其
内伊豆ニ八島アリ其東南ニ小笠原島アリ南海
道ニ淡路アリ大隅ニ種子屋久アリ其最南ニ琉
球アリ肥後ニ天竺アリ肥前ニ平戸五島アリ其
北ニ壹岐對馬アリ西北海ニ隱岐佐渡アリ北海
道ニ千島アリ是其尤モ著名ナル者

海峡

海峡ノ扼要ナル者紀伊阿波ノ間ニ紀伊海峡アリ
淡路ハ東紀伊ノ間ニ若島海峡アリ北播磨ノ間ニ
岩屋海峡アリ而シテ西阿波ノ間ニ鳴門海峡アリ伊豫

豊後ノ間ニ豊後峽アリ長門豊前ノ間ニ赤間關
峽アリ陸奥波島ノ間ニ津輕峽アリ北見樺太ノ
間ニ知主峽アリ

地峽

地峽ハ陸奥ニ北郡峽アリ備中ニ藤戸アリ肥前
ニ謝早斐津ノ二峽アリ

氣候

東海道諸國地氣溫和西嶺以西冬ヨリ春ニ至リ
テ海風強ク而ノ以東ハ陸風ヲ吹ク畿内諸國風
少ク寒暄宜キヲ得東山道諸國霜露早ク降ル之

ヲ東海道ニ比スレハ殊ニ料峭ヲ覺ニ其岩代以
北ノ地冬時氷雪凝積春半ニ至リテ漸ク消融ス
而メ兩羽ノ地風力甚々強ク動レハ屋ノ徹ス北
陸道諸國寒時寒暖計氷点ヨリ下ルヲ五六度而
メ熱時九十度以上ニ至ル其國皆風強ク雪多シ
山陰道諸國寒暖俱ニ強ク大抵北陸西方ノ國ト
相似タリ而メ冬時雪積ル三四尺之ヲ常トス山
陽道諸國地氣温平風少シ稍畿内ト相伯仲ス南
海道諸國皆煖燥高處ニ非サレハ雪ヲ積マヌ夏
時頗ル炎蒸而メ夜ニ至リテ熱ヲ洗フノ涼風ヲ

リ西海道諸國暖多ク寒少ク冬時僅ニ雪ヲ見ル
其南方ハ炎熱特ニ酷シ北海道諸國寒風凜烈盛
夏ノ晝間ニ非サレハ單衣ヲ穿ツ者ナシ冬時大
雪密封戸ヲ出ル能ハス五六月ノ交雪融ルニ及
ヒテ花木一齊ニ花ク而メ其東北ノ國ハ五寒殊
ニ甚シト云フ

人情

東海道ノ人ハ疏通慧敏其甲斐ノ人ハ強ニメ險
東京府ノ人ハ狹ニメ淳ニ縵ノ人ハ淳良常陸ノ
人ハ武ニメ固王畿ノ人ハ心匠精密其京都府ノ

人ハ雅ニメ約大坂府ノ人ハ達ニメ俗東山道ノ
人ハ大約樸厚其信濃上野ノ人ハ武ニメ頑其岩
代以北ノ人ハ朴直曉果謂フ所北方ノ強ナリ北
陸道ノ人ハ大約直實其加賀以北ハ少ク固而メ
其越後ハ甚ク淳雅山陰道ノ人ハ温順ニメ狹固
山陽道ノ人ハ異順ニメ文雅南海道ノ人ハ大約
敦厚其土佐ノ人ハ稍武健其阿波讃岐ノ人ハ稍
寛裕西海道ノ人ハ大約剛直其薩摩大隅ハ稍
悍其肥後ハ稍峭直其肥前ハ稍矜嚴北海道ノ人
其箱館ニ在ル者篤厚人ヲ愛ス遠北土生ノ人ハ

強健ニノ愚魯蕪フニ是未タ教化ノ普ク及ハサ
ルニ由ルノミ天ノ斯民ヲ生スル豈化ス可ラサ
ルノ徒アラレメンヤ其他日郁文ノ民タル亦知
ル可ラナルナリ

風俗

上古ノ風俗詳ナラス中古唐ニ通スルニ及ヒテ
宮室衣服ヨリ其他凡百多ク其制ニ擬ス家屋ノ
制板簣ヲ高クレ厚席ヲ以テ其上ニ鋪ク故ニ家
中椅卓ヲ設ケス坐スルヲ以テ禮トナス衣服ハ
瀾袖大襟布帛ヲ以テ之ヲ裁ス男子ハ額髮ヲ削

テ結髮ス女子ハ髻ヲ結ヒ笄櫛ヲ戴キ紅粉ヲ粧
シ長衣大帶ヲ着ケリ近歳ニ至リテ宮室服飾禮
節ヨリ學術工藝技能ニ及フ迄大ニ泰西ノ制ニ
倣ヒ習俗從フテ變化セリ奉スル所ノ教神教佛
教アリ

歴史

今ヲ距ルルニ千五百三十有餘歳皇祖神武天皇
海内ヲ平定シ大和ノ橿原ニ即位シ玉ヒテヨリ
三十餘世皇祖天皇ノ時ニ至リ蘇我蝦夷父子皇
家ヲ蔑如シ王権ヲ弄セシカハ皇子中大兄藤原

鎌足ト謀リ之ヲ誅シ神武ノ績ニ復シ玉フ是ヲ
天智天皇トス十餘世ヲ歷テ文德天皇ニ至リ藤
原氏ノ勢威甚ク熾シニナリ數世ノ後政終ニ其
掌中ニ滯ス保元平治以來平氏漸ク興リ藤原氏
王家ト共ニ衰フ源賴朝平氏ヲ亡ホシ霸府ヲ鎌
倉ニ開クニ及ヒテ政權全ク武門ニ滯ス既ニメ
北條氏陪臣ヲ以テ國命ヲ執リ源氏從テ亡フ
後醍醐天皇ノ時勤王ノ師ヲ募リ北條氏ヲ討滅
シ國政王家ニ復滯ス幾モ無メ足利尊氏兵ヲ舉
テ及シ故ノ後深草天皇ノ胤ヲ立ツ是ヲ北朝ト

ス後醍醐天皇南大和ニ幸シ吉野ニ據リ玉フ是
ヲ南朝トス五十四年ニメ南北合メ一トナリシ
カ氏政權全ク足利氏ニ在リ十餘世ヲ經テ政令
四海ニ行ハレハ諸侯並ヒ起リテ戰國トナレリ
織田氏勃興メ足利氏ニ代リシカ氏功業遂ケハ
中道ニメ亡ヒタリ豊臣氏尋テ興リ海内ヲ蕩平
シ二世ニ傳ヘ從テ亡フ徳川氏之ニ續キ天下
ヲ統治スルト二百五十餘年終ニ政ヲ王家ニ致
ス是ニ於テ王家從政ヲ親ラシ玉フ

政治

神武天皇國造縣主ヲ置キ天下ヲ治メ玉ヒシヨ
リ列聖相兼ル一數十世中古ニ至リ唐ノ制度一
倣ヒ文武百官ヲ設ケ國ニ守ムヲ置キ軍國ヲ造
リテ以テ不虞ニ備フ源平氏ノ時ニ至リ制度漸
ク鮮弛シ諸國ノ武士皆私ニ二氏ニ屬シ守分ノ
令若ト行ハレヌ然レ氏上古郡縣ヲ以テ國ヲ建
シヨリ此ニ至ル迄未タ封建ノ勢アラサルナリ
源賴朝天下ヲ掃蕩スルニ及ヒテ自ラ乞フテ天
下悉追補使トナリ國衛ニ守護ヲ置キ莊園ニ地
頭ヲ置キ以テ國政ヲ執レリ是ヲ霸府ノ始トス

而ノ其守護多ク其土ヲ子孫ニ傳ヘ漸ク封建ノ
勢ヲナセリ足利氏ニ至リテ大ニ其功臣將士ヲ
封シ全ク封建ノ制ヲ成セリ織田豊臣及ヒ徳川
氏各其法ヲ異ニスト雖モ亦皆其制ニ倣フ近歲
王室親テ政ヲ執リ玉フニ及ヒテ各藩ヲ廢シ再
ニ郡縣ノ制ニ復シ官省ヲ建テ海陸軍ヲ設ケ府
ニ知吏ヲ置キ縣ニ令ヲ置テ以テ天下ヲ統轄シ
玉フ
國初ヨリ今ニ至ル迄二千五百三十有餘年治乱
变革一ナラスト雖モ我國政躰常ニ立君獨裁タ

リ明治八年ニ至リ始メテ元老大審ノ二院ヲ置
キ地方官會議ヲ設ケ以テ立憲政體ノ基ヲ成セ

物産

國中金銀銅鉄諸礦及ヒ煤坑數十坑アリ出ス所
木料松杉檜栂樺其他大小竹類アリ花木ハ
則チ山櫻海棠梅花桃花紫微夜合アリ花寺ハ則
チ牡丹芍薬薔薇紫陽杜鵑菊花等アリ果實ハ則
チ橘柚柑橙梨棗杏李柿葡萄西瓜甜瓜等アリ
布穀ハ則チ稻黍粟麥及ヒ絲麻綿花等アリ皮獸

ハ則チ牛馬猪鹿猿兔熊羆豺狼狐狸等アリ
虎豹犀象ノ類アルナリ家畜ノ獸牛馬ノ外更ニ
猫狗等アリ飛禽ハ則チ鷹鶴鴻雁鴉燕雀鶯鶯
雞鴨等アリ魚貝ハ則チ鯨魚江豚鯊比目鰻
鱈鰒海鰻大口鱈鮫鮪鱈鰹及ヒ龍蝦蟹海
蛸明礬螺蛸蠣蛤蚌等アリ而シテ其他海參魚翅海
藻類尤モ多シトス

戸口

全國戸數七百一十一萬零一百七十七戸
同人口三十三百四十二萬三千七百一十五人

東京府 朱引内

戸數 一十四萬九千二百八十三戸

人口 五十九萬五千九百零五人

京都府

戸數 六萬三千二百一十七戸

人口 二十三萬八千六百六十三人

大阪府

戸數 七萬八千七百八十九戸

人口 二十七萬二千九百九十二人

右明治五年開スル所ニ從フ

各國論

東海道總論

東海道ハ西南畿内及ヒ南海道ニ接シ東南大平
 洋ニ面シ北方一帶東山道ト相依附シ且ヨリ坤
 ニ且リテ十五國ヲ連接シ一府十二縣百二十九
 郡ヲ轄有ス魚鹽ノ利甚々多ク稻麥豐饒茶絲砂
 糖亦隨フテ在リ其函嶺以東ハ上古蝦夷散居シ
 中古ニ至リ士民多ク源氏ニ属ス東京ハ地坦ニ
 港穩徳川氏ノ府ヲ開キ朝廷ノ都ヲ遷ス地勢ヲ
 接ノ其宜キヲ知ル善カナ明治四年鎮臺兵ヲ此

地ニ置キ以テ四方ノ虞ニ備フ其橫濱ハ外船輻
輳ノ區又是一大要地安房ニ然ハ古來中原ノ隆
替ニ由テ其方向ヲ定ム地勢固コリ然リトス其
鴻臺ハ以テ一時ヲ防クヘシ以テ久キヲ支フヘ
カラズ利根川波流廣大以テ一方ヲ禦クニ足ル
其泥沙ヲ流ス多キヲ以テ時ニ或ハ民田ヲ害ス
相摸ハ則チ源右府霸業ヲ定ムルノ處而メ後世
北條氏是ヨリ東北ヲ畧有ス箱根ノ險街道無雙
ト稱ス以テ西ヲ防クヘシ以テ東ヲ制スヘシ謂
フ所我得則利彼得亦利ナル者甲斐ハ則チ險要

ノ地其信濃ニ接スル處地勢彼此相制スヘシ武
田氏ノ興古ヲ見テ之ヲ知ルヘシ富士山舊火山
今時已ニ烟ヲ絶ツ而メ稀ニ灰石ヲ噴ス富士川
奔湍箭ノ如シ然レトモ上浮ニ懸橋アリ下流ニ
淺瀬アリ險ヲ賴ミテ倫ヘス平氏ノ潰ユルユエ
ンナリ是ヨリ西阿倍川大井川天龍川等河道甚
タ多シ水潦至レハ舟楫通シ難シ而メ常時ハ則
チ溪澗ノ類ニ過キス其今切ハ灣中甚タ淺ク北
ニ陸路アリテ通ス豈險トスルニ足ンヤ三河ハ
則チ徳川氏創業ノ地尾張ハ則チ織田氏勅興ノ

處其宮渡ハ陸路ニ備ヘサレハ以テ要地トスル
ニ足ラヌ而メ陸ニ水曾川アリ時ニ水溢レテ良
田ヲ害ス尾張野フ川トコソ聞ク虚言ニアラヌ
鈴鹿ノ山東急ニメ西夷カ伊賀ハ則チ山多シ而
メ大坂ニ出ルノ間道タリ小笠原島ハ則チ絶海
ノ小島固ヨソ國ニ損益ナキニ似タリ然レトモ
之ヲ衣服ニ譬フ裾端袖縁衣ニ用ナキ者ノ如シ
而ノ之ヲ棄テ豈全衣トスルヲ得ンヤ

武藏誌

武藏國ハ北兩野ニ界シ東下総ニ接シ東南海ヲ

隔テ、上総安房ト相對シ南相模ニ隣リ西甲斐
信濃ニ連ナル國中二十二郡アリ其地形東西ニ
長ク南北ニ短ク殆ト木葉ノ如シ土地甚ク平坦
其西方ニ數山アリ總々之ヲ秩父山ト云フ是ヨ
リ出ル河ヲ荒川ト云フ其下流ヲ角田川トス國
ノ北辺ヲ紫リ漸ク南メ西入間川ヲ合セ川越
東ヲ過キ南海ニ入ル其東ニ在テ並ヒニ海ニ入
ル者ヲ中川ト云フ又其東利根川ヨリ支流メ南
ニ馳スル者ヲ江戸川ト云フ之ヲ武藏下総ノ界
トス國ノ西辺ヨリ南方ヲ貫穿メ東スル水ヲ玉

川ト云フ上総安房ト相隔ツル海ノ品川港ト云
フ天晴ル時ハ二國ノ山座ヲ見ルヘン海ニ臨ム
一帯地方四里ヲ東京府トス即チ三府ノ一ナリ
其中央ニ皇居アリ城池鴻大其内外ニ官省ヲ設
ク其他學校アリ聖院アリ電機局アリ驛通局ア
リ大小街衢縱橫斷續水道流通氣燈赫燦士民商
賈相錯リテ之ニ居ル肩摩數擊日夜斷エス實ニ
我國第一都會ノ地ナリ國ノ極南ニ出ル此ア
リ本牧ト云フ其中別ニ湾港ヲトス處ヲ横濱ト
云フ萬國ノ商船港中ニ雲集シ洋館壯麗市街喧

闕貿易ノ貨物日ニ億万ヲ以テ計ル即チ我國第
一ノ埠頭ナリ近歲東京横濱ノ間海ニ沿フテ蒸
汽鐵道ヲ鋪ケリ産スル沂銅鉄瀝茶及ヒ段匹

源義家ノ時ヨリ邦人多ク源氏ニ屬ス源賴朝
石橋山ニ敗レ再ヒ兵ヲ集ル時兵ヲ角田川ニ
觀レ後大ニ平氏ヲ破レリ北條氏ノ季ニ新田
義貞ヒ野ニ興リ北條氏ノ兵ト國中ニ連戦シ
一勝一敗終ニ大ニ之ヲ破リテ北條氏ヲ亡セ
リ其後新田義興脇屋義澄等足利尊氏ヲ武藏

野ニ破ルルニシテ足利氏人ヲメ義興ヲ矢口
渡ニ誘殺セシム其季年上杉定正ノ臣大田道
灌江戸城ヲ築キテ之ニ居ル其後小田原北條
氏漸ク興リ此地ヲ掠取ス氏康ニ至リテ上杉
氏ト川越ヲ争フ氏康故サフ弱ヲ示シ敵兵ヲ
驕ラレ夜ニ衆メ大ニ之ヲ破レリ是ヲ川越ノ
役ト云フ豊臣秀吉小田原ヲ攻ル時國中諸城
或ハ降リ或ハ陥ル事平キテ後徳川氏ヲ関東
八國ニ移封ス是ニ於テ徳川氏江戸城ヲ以テ
其居城トス後霸府ヲ開クニ及ヒテ其規模ヲ

宏大ニシ公侯ノ第宅商賈ノ解舍數里絶エス
嘉永六年亞墨利加國使彼理國書ヲ齎シ通商
ヲ乞フ幕議之ヲ許ス其後歐羅巴各國尋テ來
リ和約ヲ立ツ因テ横濱港ヲ開キ埔頭トス戊
辰ノ亂ニ徳川氏ノ軍西京ニ敗レ江戸ニ還ル
既ニメ官軍來リ征ス徳川氏城ヲ開キテ之ヲ
致ス其臣相集リテ東叡山ニ據ル者アリ官軍
山ヲ圍シ撃テ之ヲ拔ク餘衆走リテ東兵ニ投
ス東兵ハ北國諸侯ノ官軍ニ抗スル者ナリ其
冬今上天皇東征シ册ヲ此地ニ定メ玉ヲ尋テ

江戸ヲ改メテ東京府トス

安房誌

安房國ハ我國ノ東南隅ニアリ北ハ上総ニ正接
シ東南西三方海水ヲ環ラス實ニ東方ノ澤國ナ
リ國中四郡アリ土地平坦小河十餘派アリ三面
皆海ニ向フテ注ク東流ノ水加茂川曾呂川丸山
川西流ノ水淡川佐久間川保田川皆稍大ナリト
ス國ノ西南ニ小灣アリ西北ニ高山アリ山嶺鋸
齒ノ如クナルヲ以テ鋸山ト名ク山上十國ヲ一
見スト云フ其東横根峠花立峠清水山岩光山ア

リ皆上総ノ境ナリ國産石決明白牛酪アリ
元正帝ノ時上総四郡ヲ割テ此國ヲ置ク治承
中源賴朝相模ニ敗レ海ニ航メ此地ニ上リ兵
ヲ遠近ニ募リ再ニ軍ヲ發レ遣ニ平氏ヲ亡セ
リ足利氏ノ時新田氏ノ裔里見家基結城ニ戰
死シ其子義實來リテ白濱ニ匿ル時ニ國ノ四
郡司互ニ相討滅ノ義實是ニ由テ遂ニ全國ヲ
服從ス後又上総ヲ攻テ之ヲ併ス子成義ニ至
リ又下総ヲ取ル二十餘年ヲ經テ其孫義豊叔
父實亮ノ位ヲ禪ラサルヲ憤リ夜稻村城ヲ襲

フテ之ヲ殺ス實堯ノ子義堯上総ニアリ來リ
テ義豊ヲ攻ム義豊自殺レ國義堯ニ屬ス義康
ニ至リ豊臣秀吉小田原ヲ征レ義康ヲ招ク其
至ニ末ヲサルヲ以テ二総ヲ削ル徳川氏ノ時
子忠義罪アリ國除カル

上総誌

上総國ハ南安房ニ界レ東東洋ニ面レ西武藏ト
海ヲ隔テ、三大灣ヲナシ北下総ニ界スル處西
南ヨリ曲折メ東北ニ至ル故ニ其地南ニ寛ク北
ニ狹レ國中九郡アリ西南ニ鹿野山、鬼渡山等諸

山アリ東南ニ小野峯澤山、元清澄、大石諸山アリ
皆錫山ト相連絡ス一水東南ヨリ發源シ北流メ
大多喜ニ至リ東ニ折レテ海ニ入ル之ヲ大多喜
川ト云フ其北ニ一宮、白龜、栗山等ノ諸水アリ其
西流スル者湊、小糸、久留里、養老、村田等ノ諸水
リ獨リ久留里川、元清澄山ノ東邊ニ出テ水源稍
遠レトス西濱第一灣ノ北、小岬ヲナハ之ヲ寫
ト云フ岬頭暗洲アリ大船ヲ通スルヲ待マ即
海門枯囊ノ處ナリ國中、小丘原野多ク版土、惟塗
泥、天雨フレハ殆ト行ヘカラス東濱ノ中間、大東

崎ヨリ下総足川ニ至ル一帯ヲ九十九里ト云フ
東國ノ一大水郷ナリ得ル所ノ魚舟中ニ滿載シ
之ヲ東京ニ送ルニ常ニ時刻ヲ移サスト云フ産
スル所干鰯茶葉アリ
上古上総下総共ニ総ノ國ト稱ス後分チテ二
國トス淳和帝ノ時此國及ヒ常陸上野ヲ以テ
親王ノ任國トス陽成帝ノ時國中ノ夷倭叛ク
國兵討テ之ヲ平ク源賴朝再ヒ兵ヲ率ル時本
國ノ人平廣常方餘騎ヲ率井テ之ヲ援ケ遂ニ
平氏ニ勝ツ後廣常故アリテ死ヲ賜フ足利氏

ノ季真里谷氏之ニ據ル後里見成義ノ亡ス牙
トナル義頼ニ至リ國大半北條氏ニ奪食セテ
ル子義康ニ至リ豊臣秀吉此地ヲ削ル

下総誌

下総國ハ南海水ヲ控シ武藏上総ヲ連テア瓊環
ノ状ヲナス東南上総ニ矩接シ以テ東北海ニ距
ル北ハ常陸ト利根川ヲ取シ西ハ武藏ニ接ス西
北隅ニ餘地アリ其形恰モ人拳ノ如シ國中十二
郡アリ地形北廣ク南狹シ地質上総ニ類ス而メ
舉國山嶽大シ國ノ正中ニ大湖アリ印幡沼ト云

其大サ大抵南北七里東西一里南方、水多ク之ニ會注ス西ニ手賀沼アリ東ニ長沼アリ皆印幡五六分ノ一ニ過キス湖ノ南方ニ廣原アリ小金原ト云フ古來牧馬ノ場タリ其伯耆氏ノ屬過クルヲ以テ野既ニ馬群無シト云フ西北拳形ノ地北隅ヲ結城トシ西隅ヲ古畑トス寺頭ノ處ヲ関宿ト云フ利根川ノ衝ニ當レリ河水此ニ至リテ南方ニ支分ス之ヲ江戸川ト云フ而其水水関宿ノ北ヲ環流シ一瀉東海ニ入ル此川一ニ坂東太郎ト云フ河口ノ峽ノ鉈子ト云フ其角ヲ

犬吠岬トス實ニ此國極東北ノ地ナリ江戸川ノ東西葛飾郡古へ皆下總ニ屬ス後世其半ヲ割テ以テ武藏ニ附ス産ハル可細及ヒ茶アリ朱雀帝ノ時平將門反シ帝陸兩野ヲ取リ武藏相模ヲ徇ヘ都ヲ猿島ニ建テ偽官ヲ設ケ白兵ヲ引テ下野ニ入ル已ニノ誅ニ伏ス源平氏ノ時ヨリ千葉結城等此地ヲ分領ス足利氏ノ時結城氏朝足利持氏ノ孤ヲ奉レ兵ヲ起ス將軍義教兵ヲ遣テ之ヲ攻ム互ニ勝負アリ己ニ城陷リ氏朝戰死ス其後持氏ノ季子成氏鎌

倉ニ入り取レテ古河ニ至リ之ニ居ル戰國ノ
時成氏ノ孫義明其兄高基ト惡シ御引ニ據リ
傍地ヲ畧ス北條氏綱之ヲ攻テ瀧臺ニ戰ヒ義
明ヲ獲而古河氏亦遂ニ散ナリ茂原ノ乱東
兵官軍ヲ結城ニ攻メ城陷ル幾ハクモ無シ
又之ヲ失フ是時ニ當リテ東兵別ニ上総ニ
リ來リテ官軍ヲ襲ヒ進ミテ市川ニ至ル遂ニ
大ニ船橋ニ戰ヒ東兵敗績ス

常陸誌

常陸國ハ南下總ニ及シ東東洋ニ面シ北磐城ニ

及シ西下野ニ降リ畧長方形ナリ而シテ其西南
ノ地西方ニ凹出シ以テ下総拳形ノ地ト相錯ハ
リ東南一角下総ト利根川ヲ排ミテ海中ニ伸
出ニ國中十一郡アリ東南水郷多ク西北山村多
シ風土記ニ云ク是國道路相望郡郷接境ト真ニ
然リ西南ニ當リテ筑波山アリ其北ニ芦穂山加
葉山アリ又北下野ノ畧ニ駒子山アリ其北隅ニ
ハ瀧山アリ其南ニ男鉢山月折山アリ月折ノ下
ニ糸田ノ温泉アリ而シテ海上ニ高鈴神神子諸山
アリ一水下野ヨリ來リ西南凹字ノ地ニ從フテ

四リ南利根ニ會ス之ヲ小見川ト云フ正南利根
川ニ近キ處一大湖アリ其大サ伊幡ニ陪蓰ス名
ウテ霞浦ト云フ西ニ向フテ三沁ヲナス中沁ノ
盡ル處ヲ土浦トス南方諸水皆先ツ之ニ匯聚シ
而ノ後利根ニ入ル坤位ニ當リテ牛久沼アリ細
流之ニ入り又之ニ出ツ霞浦ト東海トノ間又一
沼アリ南北甚ク長ク東西甚ク狭シ名ケテ北浦
ト云フ其水又利根ニ入ル其東海邊ニ石アリ要
石ト云フ石根地ニ入り其大ヲ知ル者ナレト云
フ北浦ノ北ニ涸沼アリ次ニ十波沼アリ西處ノ

水共ニ北那珂川ニ合シ而ノ後海ニ注ク那珂川
源ヲ下野ニ發シ常陸ヲ横裁メ東海ニ入ル其千
波沼トノ間ハ即チ水戸ナリ水戸ノ正西土浦ノ
正北ヲ笠間トス笠間ノ西南ニ下館アリ土浦ヲ
合セテ禹足ノ形ヲナセリ久慈川磐城ヨリ發源
レ南ニ馳セテ月折男體^{カクハ}金砂諸山ノ西ヲ過キ東
ニ折レテ那珂川ノ北ヨリ海ニ落ツ其北ニ小流
數條アリ而ノ最北ニ大北川アリ魚塩茶石蠶種
木綿ヲ産ス
後一條帝ノ時平忠常下総介ニ任シ後及ス源

頼信撃テ之ヲ平ク源頼朝兵ヲ舉ル時佐竹義政服セズ頼朝来リ攻テ之ヲ誘殺ス其姪秀義金砂城ニ據ル乃チ撃テ之ヲ走ラス後小田佐竹ニ氏此地ヲ分領ス戰國ノ時佐竹義重全岡ヲ併ス石田三成兵ヲ舉ル時其子義宣適ニ之ニ應ス三成敗レテ義宣降ル徳川家康之ヲ出羽ニ徙レ其子信吉頼宣ヲ水戸ニ連封シ最後頼房ヲ封ス徳川氏ノ季年水戸ノ臣國ヲ脱シ密ニ江戸ニ入り關老井伊氏ヲ刺殺ス已ニメ國中黨派分ル藤田某田丸某等攘夷ヲ唱ヘ兵

ヲ興シ先ツ市川某朝比奈某等ヲ除カントス近傍諸侯之ヲ伐テ五ニ勝負アリ幕府亦兵ヲ發メ之ヲ征ス此時武田耕雲齋藤田等ニ合シ兵勢頗ル強シ已ニメ軍敗レ東山道ヨリ京師ニ至リ將ニ詐フル所アラントス義濃ニ至リ途通セズ乃チ越前ニ入り加賀ニ降リ尋テ殺サル戊辰ノ乱ニ武田氏ノ族黨京師ヨリ来リ又市川朝比奈等ヲ殺ス

相模誌

相模國ハ武藏ノ南ニアリ東南一角海中ニ突出

シ安房上総ノ境ニ對ス風潮順ナル時ハ一帆走
スヘン則チ海門ノ咽喉ナリ南ハ海ニ面々湾形
ヲナシ西ハ箱根諸山ヲ繞ラシ伊豆駿河甲斐ト
疆場ヲ接ス地形雜ヲ歎ツカ如シ國中九郡アリ
土地甚々沃饒箱根ノ山嶺ニ湖水アリ其上ニ二
小山アリニ子山ト云フ其北ニ當リテ足柄山ア
リ東ニ當リテ温泉七所アリ之ヲ箱根七湯ト云
フ山水靈秀風流ノ士常ニ詠メ而メ帰ルト云フ
東ニ下リテ平地ヲ得之ヲ小田原トス南ニ石垣
山石橋山アリ又南ニ小岬アリ真鶴岬ト云フ國

中ニ大水アリ源ヲ足柄ノ北ニ發シ小田原ノ東
ヨリ海ニ入ル者ヲ瀧川ト云ヒ源ヲ甲斐ニ發
シ國ノ北邊ヲ圍リ終ニ南海ニ入ル者ヲ馬入川
ト云フニ水ノ間ニ山アリ大山ト云フ又小河ニ
三沢アリ馬入ノ東ニ流ル河ヲ片瀬川ト云フ
是ヨリ東南ヲ鎌倉トス其海濱東半ヲ由井濱ト
云ヒ西半ヲ七里濱ト云フ其西ニ一小島アリ江
嶋ト云フ潮水退ケハ歩メ行テ得鎌倉ノ東南
ヲ三浦ト云フ全地一大岬ヲナセリ岬頭ノ小嶼
ヲ城島ト云フ岬ノ東濱ニ兩港アリ南ヲ浦賀ト

云ヒ北ノ横須賀ト云フ横須賀ノ港上ニ主船寮アリ國石鉄及ヒ薪炭附^キ産ス稻米尤モ美ナリ
治承中源頼朝大庭景親ト石橋山ニ戦ヒ軍敗レ海ニ航メ安房ニ至ル後遂ニ平氏ヲ亡レ府ヲ鎌倉ニ開ク頼朝薨レ頼家立ツ北條時政ノ廢ル所トナル其弟實朝立ツ建保中和田義盛兵ヲ起シ北條氏ヲ討ス軍敗レテ殺サレ承久中實朝鶴岡ノ祠ニ詣リ頼家ノ子僧公曉ニ弒ヒラル源氏亡フ是ニ於テ北條氏如主ヲ立

テ政權ヲ專ニス時頼ニ至リ三浦光村乱ヲ起ス兵利ヲナスメ之ニ死ス貞時ニ至リ安達泰盛勢威ヲ振テ貞時之ヲ族滅ス高時ニ至リ後醍醐帝鎌倉ヲ征セントス高時帝ヲ隱岐ニ徙シ兵ヲ發メ所在ノ官軍ヲ撃ツ新田義貞上野ニ興リ勝ニ乘メ來リ攻ム高時自殺ス北條氏亡フ其後足利尊氏護良親王ヲ諛メ鎌倉ニ幽シ之ヲ弒ス是時ニ當リテ高時ノ子時行乱ヲ起シ鎌倉ニ入ル尊氏京師ヨリ至リ時行ヲ撃テ之ヲ獲ス已ニメ尊氏叛ス新田義貞來リ征

シ箱根ニ戦フ義貞敗レテ還ル其後北畠頭家
及ヒ新田義興等前後鎌倉ヲ取ル然レトモ皆
保ツ能ハス尊氏其次子基氏ヲ是ニ置キ関東
ヲ総督セシム持氏ニ至リ京家及ヒ管領上杉
憲實ト隙アリ憲實上野ニ奔ル持氏兵ヲ遣テ
之ヲ攻ム將軍義教大兵ヲ發シ鎌倉ヲ討ス持
氏降リ尋テ自殺ス後持氏ノ子成氏上杉憲忠
ヲ殺シ鎌倉ニハル其族房頭兵ヲ擧テ成氏ヲ
伐ツ成氏走ル明應中北條長氏伊豆ニ興リ計
ヲ以テ小田原ヲ取リ又三浦城ヲ取ル氏綱氏

康ニ至リ上杉氏ト連年兵ヲ交ヘ遂ニ八州ヲ
畧取ス上杉輝虎大擧ノ小田原ニ至ル將士叛
ク者アリ乃チ師ヲ班ス武田晴信北條氏ヲ三
増ニ敗リ小田原ニ薄ル已ニノ亦引還ス氏政
氏直ニ至リ豊臣秀吉來リ征ス関東ノ屬域一
陷ル氏政自殺シ氏直放タル北條氏亡國徳
川氏ニ帰ス戊辰ノ乱ニ東兵安房ヨリ舟一乘
メ至リ箱根ヲ扼ス官軍之ヲ伐チ大ニ山中ニ
戦フ東兵敗レ横海ニ浮ヒテ去ル

伊豆誌

伊豆國ハ北境駿河ニ接シ鈍角ヲナス東西兩邊
海ニ面シ漸ク殺キテ南ニ至リ尖頭ヲ為ス即チ
東海ノ一大岬地ナリ國中四郡アリ山ニ非レハ
則チ水山ニ據金美石アリ海ニ松魚海苔アリ東
北ノ山ヲ曰鏡湖岩黒岳ト云フ其南方ヲ伊東ト
ス小岬アリ又南ニ大室山大笠山アリ國ノ中央
ニ大山アリ天城山ト云フ薪炭多ク是ヨリ出ツ
是際ヨリ東南ニ流ル、水ヲ川津川稻生澤川ト
ス稻生澤ノ注シ處ヲ下田港トス南海來往ノ船
多ク此ニ停泊ス而シテ此際多ク石ヲ出ス南ノ盡

頭ヲ石麻崎ト云フ狂瀆崖岨ヲ打ツ鷲ノハク喜
ノヘシ西ニ繞リテ海中ニ岩アリ門ノ如シ千貫
門ト云フ其北ニ松崎川仁科川アリ最ニ北ニ曲
岬アリ駿河ト灣ヲ抱テリ而シテ西岸一帶都テ穩
港アルナシ狩野川天城山ヨリ出テ諸水ヲ合
北行シ北條ノ西ヲ過キ駿河ニ入ル謂フ所莊山
北條蛭小島大場寺ノ地皆川ノ東ニアリ國中熱
泉十餘アリ其中弦卷山ノ東麓ニ熱海ノ湯アリ
北條ノ西南三里ニ修禪寺ノ湯アリ是其最ニ著
名ナル者ナリ又國ノ東南海中ニ七島アリ大島

三宅島最モ大ナリトス大島ノ内火山アリ常時
烟焰ヲ吐ケリ其南方ニ當リテハ丈島アリ島
大サ大約東西七里南北一里半四邊險難舟ノ近
ク甚々難シ地縮木ヲ生セス而ノ細ヲ産ス
天武帝ノ時駿河ニ郡ヲ割テ此國ヲ置クイ
乘果記ニ見ユ而メ舊史應神帝伊豆ノ人ヲメ
大船ヲ造ラシムルヲ載ス天武以前已ニ此
國アルニ似タリ然レトモ未タ孰レカ是ナル
ヲ知ラス保元ノ乱源為朝ヲ大鳴ニ流ス為朝
近傍諸島ヲ併セ自ラ之ヲ領ス後去テ琉球ニ

入ル平治ノ乱平氏源賴朝ヲ蛭小島ニ流ス後
二十年ヲ經テ以仁王ノ令旨ヲ奉メ兵ヲ起シ
目代山木兼隆ヲ襲殺シ遂ニ相模ニ入ル賴朝
天下ヲ平クルノ後其弟範賴ヲ此地ニ幽シ尋
テ死ヲ賜フ其後北條時政源賴家ヲ修禪寺ニ
殺ス足利氏ノ時東國乱ル將軍義政其弟政知
ヲ鎌倉ニ遣ル入能ハスノ北條ニ居ル之ヲ堀
越御所ト云フ後其子茶々ニ弑セラル時ニ北
條長氏駿河ニ客タリ兵ヲ發メ茶々ヲ弑シ因
中ヲ平定ス後計ヲ以テ小田原ヲ取り之ニ入

ル豊臣氏東征ノ時北條氏^規韭山ヲ守リ屢力
戦シ後遂ニ降ル関原ノ戰浮田秀家西軍ノ元
帥タリ軍敗ル、ニ及ヒテ嶋津氏ニ投ス徳川
氏死一等ヲ減シ之ヲ八丈島ニ流ス

甲斐誌

甲斐ヲ環ルハ皆山ナリ國ノ形南瓜ノ如シ東端
ヲ相摸ニ接シ北方肩ヲ武藏ニ腹ヲ信濃ニ交ヘ
南方肩腹俱ニ駿河ニ界シ而ノ西^躰ヲ駿河信濃
ノ境ニ安シ人國中四郡アリ其地信濃ト共ニ至
高ノ所トス國中ノ山東北ニ天目山アリ北境ニ

金峯^ハ嶽アリ西ニ駒岳鳳皇白根諸山アリ西南
ニ七面山身延山アリ而ノ東南ニ當リテ富士山
兀立ス甲斐其三ノ一ヲ得登山ノ路アリ上吉田
一云フ岳麓ニ五大湖アリ東ニアル者ヲ山中池
ト云ヒ次ヲ川口湖ト云フ山中池ヨリ出ル水或
ハ北シ或ハ東シ諸水ヲ合シ東猿橋ヲ過キ相摸
ニ入ル即チ馬入川ノ上浮ナリ國ノ中央ヲ府中
トス其西ニ當リテ^萑崎アリ其北ヲ新府トス荒
川正北ヨリ都邑ノ西ヲ通過ス又笛吹川東北ヨ
リ諸水ヲ合シ其南ニ至ルニ水會合ノ西南ニ流

ル之ヲ富士川トス既ニノ南芦川北釜梨川ヲ合
セ斬ク南ノ駿河ニ奔注ス織澤ヨリ舟ノ而ノ下
ル須臾ニ山水面ヲ改ム翠壁一重雲一重我是ニ
於テ又之ヲ云フ産スル所玉多石多縮多細多葡萄多材栗石
炭等アリ

源義光此國ヲ領シ子孫遂ニ之ニ居ル武田氏
ハ其裔ナリ晴信ニ至リ四隣ヲ兼并シ天下ノ
強國ト稱ス子勝頼諛ヲ信シ功臣多ク戦死ス
織田信長父子大舉ノ來リ討ツ諸軍逃降相尋
ク勝頼天目山ニ棲ミ健闘ノ死ス武田氏亡フ

織田氏徳川氏相尋テ之ヲ領ス徳川氏関東ニ
徙リ加藤淺野又相尋テ之ヲ領ス後徳川家康
其子義直ヲ封ス巳ニメ尾張ニ徙ス其後四世
將軍其弟綱重ヲ封ス綱重罪アリ死ヲ賜フニ
十餘年ヲ經テ五世將軍綱重ノ子ヲ養フテ世
子トシ其地甲舉テ柳澤吉保ヲ封ス後之ヲ郡
山ニ徙封シ城番ヲ置テ之ヲ治ム戊辰ノ乱東
兵柵ヲ勝沼驛ニ設ケ西軍ヲ拒テ敗レテ東ニ
走ル

駿河誌

駿河國ハ東相模伊豆ニ界シ南面海ニ臨ミ伊豆
ト一大湾ヲ擁シ西遠江ト大井河ヲ界ス北方一
帶甲斐ト界シ西肩ヲ聳ヤカメ四字様ヲナス國
七郡アリ北境皆山獨リ海邊平夷ナリトス東方
ニ箱根ノ連山アリ四字ノ東肩ニ富士山アリ高
サ霄漢ヲ摩シ白雪恒年絶ニス實ニ我國第一ノ
高山ナリ山頂ニ大洞アリ古時烟焰ヲ發スル處
ト云フ登山ノ路東ニ須走アリ南ニ村山アリ山
ノ東腹一山アリ形附贅ノ如シ寶永山ト云フ贅
永冲岳頂邊ニ灰石ヲ噴シ此山ヲ起立ス因テ以

テ名ク西肩ノ東ニ小澤山大谷崩アリ西北ニ御
室山諏訪岳松山アリ西ニ高根高尾笠張千葉諸
山アリ其東ニ宇津山及ヒ小流兩三派アリ其東
安倍川北ヨリ來リ海ニ入ル其東岸ヲ静岡トス
北方ニ山アリ龍爪山ト云フ東南海邊ノ山ヲ久
能ト云フ久能ヨリ東北ニ向フテ池田南アリ形象
真ノ如シ三保ト云フ其内湾ヲ清水港トス港ニ
注ク水ヲ巴川トス其東ニ沖津川アリ東岸ヲ薩
摩トス又東ニ富士川アリ湍流迅疾箭ヲ發ツカ
如シ即チ四字ノ正中ニ當レリ其東ニ沼アリ此

際ヲ浮島原ト云フ即チ岳ノ正南ニ當レリ又東
ヲ沼津トス北ニ足高山アリ富士山ニ切近ス東
南ニ狩野川アリ伊豆ヨリ來リテ海ニ入ル一水
東北ヨリレ狩野川ニ合マ即チ黄瀬川是ナリ國
茶紙及ヒ漆器ヲ産ス

景行帝ノ時皇子小碓東征シ浮島原ニ至ル賊
原ヲ燎テ之ヲ圍ム皇子劍ヲ揮フテ之ヲ拒ク
賊軍敗走ス治政中源賴朝兵ヲ舉ク平維盛輩
大兵ヲ率テ之ヲ討シ富士川ニ陣ス一夜水
會ノ起ルヲ聞キ誤リテ敵軍已ニ至ルトナレ

大ニ潰走ス賴朝天下ヲ平クル後富士野ニ獵
ス曾我兄弟工藤祐經ヲ撃テ父ノ仇ヲ復ス後
數年堀原景時諸將ト難ヲ構ヘ舉族西走シ松
崎ニ至リ土人ノ殺ス所トナル其後阿野全成
叛ス源賴家之ヲ常陸ニ故ナ人ヲメ之ヲ殺サ
シム後醍醐帝ノ時足利尊氏及ス新田義貞之
ヲ征シ足利直義トテ越河原ニ戰フテ之ヲ破
ル後直義尊氏ニ叛キ兩軍大ニ陸陸山ニ戰フ
直義敗走ス尊氏後今川範國ヲ此國ニ封ス義
元ニ至リ兵ヲ發メ尾張ニ入リ織田信長ニ襲

ハレテ敗死ス子氏真昏愚武田晴信之ヲ攻ム
氏真奮ル今川氏亡ノ武田氏北條氏ト屬兵ヲ
國中ニ接ヘ北條綱重ヲ蒲原ニ攻テ之ヲ獲遂
ニ府中ヲ取ル勝頼ニ至リテ織田氏ノ亡ス所
トナリ國徳川氏ニ歸ス家康乃チ府中城ニ居
ル其後豊臣氏之ヲ關東ニ移封ス關原役後家
康復府中城ニ居ル家康薨ス頼宣忠長宗室ヲ
以テ相奪テ封セラル後忠長罪アリテ封ヲ收
メラル慶安中由比正雪反ヲ謀リ之ニ據ラン
トス事露レテ誅ニ伏ス戊辰ノ亂ニ東方已ニ

定マリ朝廷徳川氏ヲ此地ニ封レ遠江及ヒ三
河數郡ヲ加封ス

遠江誌

遠江國ハ十二郡アリ南海ニ面シ東大井川ヲ以
テ駿河ニ界シ北信濃ト連山ヲ界シ西亦山ヲ分
チテ三河ニ界ス地勢北ヨリ南ニ向フテ漸ク啓
キ箕形ヲナス其巽位ノ一隅ヲ御前岬ト云フ大
抵北半山多ク南半平土多シ東北ニ風不入山朝
日岳黒法師春野六日諸山アリ東ニ粟岳アリ其
西南ヲ掛川トス南方ニ小笠山高天神アリ亦其

西南ヲ横砂トス國ノ中央ニ不動秋葉大鏡諸山
アリ西北ニ推現平澤白倉諸山アリ西南隅ニ高
師山アリ大井川甲斐ノ極西ニ發源シ直流メ南
ニ馳ス平時水甚タ少シ秋水時ニ至レハ西溪ノ
間牛馬ヲ辨セス故ヲ以テ街道第一ノ大河トス
其他細流東北ニ發水シ合メ一トナリ南海ニ入
ル而メ天龍川信濃ニ發源シ西北隅ヨリ蛇行メ
漸ク大河トナリ亦南海ニ入ル其西ニ濱松アリ
濱松ノ北ニ味方原アリ其西方ニ大湾アリ門口
甚タ狭ク中ニ支湾多シ形珊瑚樹ニ似タリ此湾

明應ノ地震永正ノ山崩元禄ノ海嘯ニ由リ陸地
陥リテ水底トナル所多シ兼海ノ變又毎ノ暴十
ル其西岸ヲ新居ト云フ之ヲ國ノ西境トス講布
木材及ヒ石灰石脚油ヲ産ス
嵯峨帝ノ時此國及ヒ駿河ニ即スル所ノ新羅
七百人團民ヲ殺シ伊豆ニ入リ海ニ没ヒテ地
ル追兵撃テ之ヲ殲メ南北朝ノ時宗良親王兵
ヲ井伊城ニ起ス後今川氏ノ封國タリ戰國ノ
時徳川家康三河ヲ定メ遠ニ治メ濱松ニ徙シ
屢武田氏ト國中ニ戰フ曰ニメ晴信ト味方原

ニ戰テ大ニ敗ラル武田氏亡フルニ及ヒテ國
盡ク徳川氏ニ屬ス後豊臣秀吉徳川氏ヲ關東
ニ封シ關原捷後又徳川氏ニ帰ス

三河誌

三河國ハ南海ニ臨ミ東、遠江ニ正接シ北、信濃美
濃ニ界シ而シテ西、堀川ヲ以テ尾張ニ界ス全國ハ
郡アリ地勢畧方形而シテ東南一、大長岬アリテ坤
位ヲ指ス其頭處ヲ伊良湖ト云フ西南志摩ニ對
ス岬半ノ一角大地ノ角ト對メ灣ヲ包ム灣ノ當
中ヲ豊橋トス豊川東北ヨリ來リ豊橋ヲ過リ灣

ニ入ル其上流東ニ鶯巢山アリ西ニ長篠アリ其
北ニ鳳來寺アリ國ノ中心ヨリ稍西ニ松平アリ
其西南ヲ岡崎トス皆徳川氏ノ故地ナリ矢矧川
北方ニ發源シ西ニ流レ南ニ折レ東足助川ヲ合
セテ岡崎ノ西ヲ過キ又東大平川ヲ合セテ海ニ
入ル國中小山多シ木綿石灰ヲ産ス

南北朝ノ時一色吉良ニ氏之ヲ分領ス其後新
田氏ノ裔世良田有親此國ニ至ル其子泰親松
平氏ニ養ハル子孫漸ク其土ヲ廣ム其八世ノ
孫ヲ徳川家康トス家康ノ幼ナルヤ織田氏來

リ侵ス今川氏之ヲ救ヒ小豆坂ニ戦フテ之ヲ
走ラヌ家康長スルニ及ヒテ岡崎ニ居リ漸ク
國中ヲ平定スバニメ治ヲ遠江ニ移ス其後織
田信長トカヲ戮セ武田勝頼ヲ長篠ニ被ル豊
臣氏東征ノ後徳川氏ヲ關東ニ移封ス關原役
後徳徳川氏ニ帰ス

尾張誌

尾張國ハ其形匙ヲ側ツカ如シ東柄後ヲ三河ニ
接シ北匙成ヲ美濃ニ接シ西匙頭ヲ伊勢ニ接シ
而ノ匙而ト柄前ト海湾ニ面ス國中八郡アリ上

地平潤海湾、盡ル處ヲ宮ト云フ熱田社アリ其
正北ヲ名古屋トス北ニ小牧山アリ又其北境ヲ
犬山トス其東ニ八雙山・黒平山アリ山下ニ池ヲ
リ入鹿池ト云フ夫田川・龍泉寺川東ヨリ来リ名
古屋ノ北ニ合流シ漸ク南メ海ニ入ル之ヲ枇杷
島川ト云フ名古屋ノ西北枇杷嶋川ヲ隔テ、清
洲アリ其西ヲ過キテ南スル水ヲ雙江川ト云フ
其他細流數流アリ木曾川匙底ニ從テ西南シ
遠ニ岐ノ海ニ入ル之ヲ國ノ西境トス東ハ宮ノ
東ニ山崎川アリ又東ヲ鳴海及ヒ桶狭間トス其

間ニ天白川アリ是ヨリ南ニ大隅地アリ即子匙
柄ノ處トス其西南ニ向フ處ヲ野間トス南ノ盡
頭ヲ師崎ト云フ東三河ノ伊良胡岬ニ對ス而
隅地ノ東西兩岸俱ニ磯灘ナリト云フ國中猶舊
繼餅額シホリ又ヒ酒ヲ産ス
平治ノ乱源義朝京師ニ敗レ内海ニ至リ長田
忠致ニ依ル忠致歎キテ之ヲ殺ス承久ノ役京
軍此地及ヒ美濃ヲ守リ東軍ノ敗ル所トナル
足利氏ニ至リ斯波氏ヲ封ス後其臣織田信秀
之ヲ奪フ其子信長膽畧アリ今川義元來リ攻

ム信長之ヲ桶狹間ニ襲ヒ撃テ之ヲ殺ス己ニ
ノ美濃ヲ取リ治ヲ岐阜ニ徙ス信長薨ノ後其
子信雄之ヲ領ス豊臣秀吉信雄ト絶ツニ及ヒ
テ大兵ヲ引テ來リ伐ツ信雄拔ヲ徳川家康ニ
乞フ家康大ニ秀吉ノ軍ヲ長湫ニ破ル幾ハシ
モ無クメ信雄秀吉ト和ス秀吉東征ノ後信雄
ス出羽ニ徙封ス關原ノ役後家康其子忠吉ヲ
封ス忠吉卒ス又其弟義直ヲ封ス

志摩誌

志摩國ハ我國ニ在テ至小ノ國ナリ西伊勢ニ接

シ南東北三方均ク海ヲ受ク國中ニ郡アリ西境ヨリ出ル水西三冰東ヲ指テ馳セ内海ニ注ク内海口狹ク内廣シ其北岸角出ノ所ヲ的矢崎ト云フ内海ノ口ヨリ伊勢ノ境ニ至ルマテ地勢微ク西北ニ裁ケリ最北ノ地ヲ鳥羽ト云フ東三河ノ伊良胡岬ニ遙對シ一大海水其間ニ入ル其東ニ入ル者ヲ三河ノ湾トシ西ニ入ル者ヲ伊勢ノ海トス而シテ此港西方ニ紀州灘アリ東方ニ遠州灘アリ故ニ往來ノ船必ス此ニ入り風定ルヲ待テ後帆ヲ掲ク是ヲ我國ノ喜望峯ト云フモ豈不可

ナランヤ其東北坂手菅島等ノ島十數アリ内海ヨリ南岸頭波荒シ其東南海角ヲ大玉岬ト云フ岬後西ニ向フテ更ニ一大長岬ヲナシ其内亦海水ヲ控ス即チ此國ノ南濱ナリ産スル河真珠魚類アリ
織田氏ノ時九鬼嘉隆此地ニアリ數信長ヲ殺シ豊臣氏ニ至リ國ヲ舉テ嘉隆ニ與テ石田三成兵ヲ擧ル時嘉隆鳥羽ニ據テ西軍ニ應ス西軍敗ルニ及ヒテ嘉隆自殺ス

伊勢誌

卷之八 三

伊勢國ハ東南志摩ニ接シ正南海ニ臨ク西南紀伊ニ取レ西大和伊賀及ヒ近江ニ連ナリ北美濃尾張ニ接ス東尾張ノ師崎ト一大海ヲ隔ツ謂フ所伊勢ノ海是ナリ汀渚清淺貝多シ珠多シ地勢北一半ハ甚々狭ク南一半ハ漸ク開ク殆ント揆形ノ如シ西土高亢東立漸ク低ル北尾張ニ交ハル處ヲ乘名トス美濃ノ境ニ兼坂峠アリ近江ノ境ニ藤原岳釋迦岳冠岳鈴鹿山アリ大和ノ境ニ尼岳高見岳國見岳諸山アリ之ヲ國ノ西南隅トス南方ノ濱坤坎相犯ス志摩ニ近キ處ヲ宇治

ト云フ内宮アリ其北ヲ山田トス外宮アリ其東濱ヲ二見浦ト云フ其北ニ宮川アリ西南ノ山ヨリ發源ス又北ニ藤原川攝田川アリ其北少ク灣ヲナク松坂雲津ニ水其際ニ落ツ松坂川ノ南岸ヲ松坂トシ雲津川ノ北方ヲ津トス次ニ塔世川高岡川崎川三重川淺毛川アリ以テ乘名ニ至ル而シテ此諸水皆東流ク海ニ灌ク國中十三郡アリ陶器水綿及ヒ茶ヲ産ス
垂仁帝ノ時天照大神ノ宮ヲ五十鈴川ノ上リニ建シ今ノ内宮是ナリ雄略帝ノ時豐受大神

日本書紀卷之十一

ヲ丹波ヨリ山田ニ遷ス今ノ外宮是ナリ後世
平氏此國ニ封セラル故ニ平氏亡フル、後其
遺臣等兵ヲ擧テ恢復ヲ謀ル源朝雅擊テ之ヲ
平ク南北朝ノ時北畠頭家足利氏ノ兵ヲ雲津
川ニ破ル南北一統ノ後南朝ノ胤小倉殿大統
ヲ繼ント欲シ國司北畠氏ト謀リ兵ヲ起ス國
司戰死シ殿乃チ降ル戰國ノ時織田信長北畠
具教ヲ攻ム具教成キヲ行フ信長其子信雄ヲ
北畠氏ヲ續シム又神戸盛友ノ平々其子信
孝ヲ以テ神戸氏ヲ續シム時ニ長島ノ賊屢興

リテ信長ヲ苦マシム最後信長兵ヲ引テ長島
ヲ攻メ擊テ之ヲ殲ス因テ其五郡ヲ割テ滝川
一益ニ與フ信長薨ノ後北畠具親篠山ニ據ル
信雄擊テ之ヲ走ラス是ヨリ先一益信孝ヲ右
ヶ豊臣秀吉ヲ除カシトス秀吉信雄ト一益ヲ
長濱ニ攻ム已ニメ一益降ル秀吉信雄ヲノ國
ヲ候サシム小牧ノ役一益秀吉ニ應メ國中諸
城ヲ攻ム徳川氏之ヲ救フ一益乃チ降ル秀吉
東征ノ後信雄ヲ出羽ニ徙ス關原ノ役諸城西
軍ニ應シ已ニメ平ク其後徳川氏藤堂氏ヲ津

二封ス

伊賀誌

伊賀國ハ東方一帶伊勢ニ長レ北方一帶近江ニ
 接シ西位山城ニ交ハリ西ヨリ午ニ至シ迄大和
 ニ段々其地南北稍長ク東西稍短ク楕圓ノ狀ヲ
 ナセリ國四郡アリ四境皆山誠ニ山間ノ一彈丸
 地ナリ長田川東南ニ發源シ西北一流レ山城ニ
 入ル之ヲ木津ノ上流トス水東北ヨリ來リテ
 之ニ合ス其間ヲ上野トス山城ノ地方ニ近シ黒
 田川大和ヨリ來リ名張川ト合メ後々西大和ニ

後ル河南一黒田峠アリ為呼夫レ甚爾タルモ國
 ナリ學者國ノ大小ヲ以テ遠一其優劣ヲ論スル
 勿レ

天武帝ノ時伊勢四郡ヲ割テ此國ヲ置ク戰國
 ノ時國中乱ル北宮信雄簡井順慶之ヲ征レ十
 餘城ヲ拔ク信長乃チ之ヲ信雄及ヒ信包ニ分
 賜ス豊臣氏ニ至リ簡井定次ヲ封ス徳川氏ニ
 至リテ之ヲ藤堂氏ニ與フ

附 小笠原島誌 一 無人島ト云フ

小笠原島ハ東海道ノ東南洋中ニアリ島數總計

九十有四其最モ大ナル者北一父島アリ南ニ母島アリ父島ノ地南北稍長ク東西之ニ半ス内ニ鑿山旭山アリ東南隅ヲ巽岬ト云ヒ西南隅ヲ南岬ト云フ西北ニ灣アリ口西ニ向フ中ニ二見港アリ北至近ノ處ニ兄島野島アリ稍大トス母島ノ地父島ト遙ニ相隔絶ス其地形南北甚ク長ク東西甚ク短シ險夷相半ス南方ニ乳窟山アリ東岸ノ南方ニ小半島アリ東岬ト云フ次ニ石門岬アリ其北ニ又半島アリ南ヲ片港ト云ヒ北ヲ北港ト云ヒ極北ヲ乾岬ト云ノ西南ニ沖村港アリ

極南ヲ南岬ト云フ南方ニ姉島妹島姪島等アリ昔小笠原貞頼新地ヲ索ヒ始テ此島ヲ得因テ島毎ニ其名ヲ命シ而ノ總テ号ノ小笠原島ト示フ嗚呼我國豈關龍其人無シトヤンヤ但得ル所ノ地大小肥瘠同カラサルヲ以テ其名特ニ頭レサルノ島中李候炎威殊ニ酷産スル所椰子橄欖龍眼肉狹椰子及ヒ甘蔗アリ海中巨鱈鯨魚甚ク多シ
文録中豊臣秀吉小笠原貞頼ヲメ洋中ノ島嶼ヲ索メ以テ所存ト為ヘキヲ命ス是ニ於テ貞

頼洋中ニ航出シ始テ此地ヲ發見シ永ク其所
領トス寛永中故アリテ渡海中絶ス享保中貞
頼ノ裔貞任ヒ書ニ島ヲ檢セシト云フ之コ
許ス後五年貞任ノ姪長晃大坂ヨリ船ニ乘シ
之ニ赴キ島中ノ産物ヲ簡メ歸ル已ニメ航海
又巳ト云々又中幕府官人ヲ遣テ又島中ヲ巡察

兵要日本地理小誌卷之一終

東 京 圖 書 館

新 門 世 四 函

八 部 一 架

類 號